

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791600010		
法人名	有限会社MAJUN		
事業所名	グループホーム福ら舎		
所在地	沖縄県国頭郡恩納村字恩納6332番地		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4791600010&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレクト西205
訪問調査日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、緑豊かで閑静な地域に立地し、近隣には村総合福祉保健センターや、協力医療機関が隣接している。建物は彩光の良いバリアフリー住宅でADL(日常生活動作)が低下しても職員の介護の負担が大きくならないように配慮されている。利用者一人ひとりの希望に沿った対応を心がけており、施設構内での日光浴をしながらの御茶会や昼食会・施設郊外のへの個別散歩では、近隣医療施設の屋外ベンチでの待合の方のと団らんや、散歩中に道に落ちているゴミを拾ったりと、利用者様の地域参加の意識を高め、喜ばれている。看護師の配置があり、隣接する協力医療機関との連携も取れており、ターミナルケアや予防接種等に関しても隣接医療機関より医師が来所し、利用者の医療に関する身体的な負担の軽減や、終末期を迎える家族の精神的な負担軽減も図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「一人ひとりに寄り添う形でその人生を共に歩み、笑顔あふれる日々の中でその人らしい生活が継続できるように、心地の良いサービスの提供に努めます」に添って、利用者の高齢化や重度化に向き合いながら、事業所内で一日中過ごすのではなく、天気の良い日や体調が良い日は、庭先でお茶会や昼食会を実施し、さらに併設する通所サービスへ出向き、行事へ参加する等、管理者を始め職員は積極的に取り組んでいる。医療連携に関してもホームの近隣には、協力医療機関が隣接しており、緊急時対応や医師の来所対応など利用者や家族に安心感を与え、管理者や職員の医療に関する負担の軽減が図られている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年3月12日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のADL(日常生活動作)の低下や病状の悪化等があってもその時々の変化に合わせて理念の実現に向けて取り組んでいる。	開所時に作成した地域密着型サービスの意義をふまえた理念は、職員が日常的に目にする事務所に掲示し共有され、毎日の業務で心がけ実践している。管理者は重度化や高齢化に伴い、今後どのように支援していくかが課題と考え見直しも考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のADLの低下や持病の悪化に伴い、来所での交流以外に、外出しての地域との交流が厳しくなっている。その中でも外出可能な方に関しては職員とともに外出しニーズに沿った対応を行っている。	地域とは馴染みが薄かったが年々努力はされている。毎年、福祉祭りに参加し、近くにあるゲートボール練習場で老人会の皆さんと挨拶をするようにしている。また、協力医療機関での受診時に地域の方々とは会話を交わしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の相談や、見学に来所された方へ、その家族が抱える認知症に対する問題についてアドバイス等を行なっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営指針会議にて、地域主催のイベント等で事前調整により、福祉車両の駐車を優先的に出来るように調整する旨の意見を村の担当課から頂けた。	現在委員の日程調整が難しく会議は1年間で2回のみで開催となっている。会議には行政や地域住民、家族参加はあるが利用者の参加はない。主に現状報告や外部評価結果、避難訓練実施報告等を行い、事業所の理解と支援が得られるよう委員に働きかけている。	会議は指定基準上2ヶ月に1回以上の開催が義務となっているので、委員との協力関係の構築等を含め定期的な開催を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	老老介護等の問題を抱える入居者に対し、福祉健康課のみならず、村民課との協力の下にスムーズに入居調整をすることが出来た。	行政担当者とは運営推進会議の他、入退居時に関して等電話で連絡している。双方の連携により、虐待ケースの緊急時受け入れを実施するなど協力関係を築いている。行政主催の催しへの参加の誘いもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵を使用せずにセンサーを使用するなど工夫をしている。	日中玄関は施錠せず自由に出入りができる。現在、ベットからの転倒の危険がある利用者が2名おり、夜間ベットに柵を取りつけ、利用者が起きると同時に外すようにして配慮している。随時検討会議を持ち、家族へは口頭で同意は得ているが文書でのやり取りはしていない。	身体拘束に関する説明書の期間を明記するとともに経過観察を記録し、定期的な見直しや工夫が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待の定義やその防止策について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護と成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書並びに重要事項説明書を必ず読み合わせ、理解を得た上で契約いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱「希望の声」を設置しているが一度も投書は見られないものの、家族来所時には職員が直接家族とのコミュニケーションの中で要望をくみ取り、実践している。	管理者は利用者の思いを汲み取るために、月1回介護相談員を受け入れている。また、日々の会話の中から聞くようにしている。家族からは面会時や毎月定期的に電話で近況報告をする際に、意見や要望等についても尋ねているが反応がない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にミーティングを行い、利用者の処遇等のみならず、業務の改善等に必要意見をくみ取り、実際の業務改善につなげている。	管理者は月1回の定期の職員会議や日々の業務の中で直接職員の意見を聞いている。入浴はストレッチャーのみの介助から職員の要望でシャワーキャリーを購入し入浴支援時の負担軽減となった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に応じての昇給等を行っている。また、国家資格に対して十分な資格手当を提示している。職員の意見を組み入れ、勤務時間の調整を行った。勤務の難しい時間帯でも負担が軽減できるように調整を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や講演会等に対し積極的に参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟し、情報交換や連絡会主催の研修会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心に、本人のニーズの把握を行い、なじみの関係作りの一助としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や本人に対する気持ちを理解し、家族との関係づくりの一助としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	試験的な入所も視野に入れた説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に必要な作業（掃除・洗濯・調理の下ごしらえ）に関してはいつも利用者と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは積極的な来所を声掛けし、ときには電話にて会話を交わし、利用者様への支援の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様より「家族に会いたい」等のコメントがあった際は、即家族へ連絡し、本人の気持ちを家族へ伝える橋渡しを行っている。	利用者の生活歴等は開始時に本人や家族、親戚等から聞き取り把握している。信仰のある利用者に関係者の訪問があり、本人も交えて賛美歌を歌ったりしている。車椅子使用の利用者と出身地域をドライブし、馴染みのあった近所の方たちと話をする等の関係性の継続の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理の下ごしらえを全く行わない男性利用者が、仲良しの女性利用者の手伝いをする事で、調理の下ごしらえに参加することがあった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設入院となった利用者の下へも職員が時折顔を出し、声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でも、それまでの生活歴や家族から聞いた「本人の性格」「癖」等を把握し、以降の把握の一助としている。	日々の会話の中から本人の思いや意向を把握し、利用者間の関係性について配慮したり、美容室で整容したい等利用者の希望を受け入れ支援している。把握が難しい場合は表情や行動から推測したり、家族から情報を得たりしながら本人の意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	大声でしゃべる利用者について、難聴の夫との生活が長かったことに着目し、本人理解を深めた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族との連絡調整の中で本人の情報を確認することで職員の本人理解につながり、本人の意思に沿ったケアがなされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即した介護計画を作成し、介護計画に上らない細かな対応に関して、現場とケアマネージャーが家族と調整を行い対応している。	半年毎に本人、家族が参加しサービス担当者会議を開き介護計画を見直している。職員間では随時ケア内容等の話し合いを持ち、モニタリングを行っている。利用者それぞれのサービス内容が記載された介護記録があり、個別ケアの実施に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録様式を一新し、より細かな本人把握が出来るようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	熱帯魚を飼いたい利用者の要望に応じ、機材の購入や管理に対してのサポートを行っている。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店に買い物の際には他の買い物客や店員の方（まちやぐあーのおばさん）との会話を楽しむ場面があった。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時に、こまめに本人の状況を主治医へ報告している。また専門病院への検査の調整の際に、主治医より紹介状を頂きと家族の協力の下、対応できた。	隣接する医療機関が利用者全員の利用開始前からのかかりつけ医となっている。受診は家族対応が基本だが、車椅子等移乗が困難な利用者の送迎は事業所が対応している。専門医等他科受診は、管理者や看護師も同行して口頭にて情報を提供している。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日頃の健康管理や状態変化に応じた対応を行っている。看護師不在の場合も24時間連絡が取れるようにマニュアル化し対応している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族本人主治医との連携をとり、短時間での治療や、治癒が見込めない場合での事業所の受け入れ体制等を確認しながら支援を行う方針である。		
33	(12)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でのターミナルケアの対応を行った際、村の職員、出身地域の民生委員、家族、入居前に住んでいた家の近隣の方との調整のノウハウを生かし、終末期を迎えた時の意向や対応方法について確認あった。	状況変化時には家族の希望や主治医の判断を仰ぎながら支援している。昨年は看取りを行ったが、マニュアル作成までには到っておらず必要な書類のみを揃えている。職員へは事業所としての大まかな方針を伝えるに留まっている。	
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿った対応を行えるよう勉強会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・総合訓練を合わせて年2回は行う予定である。	3月と11月に昼夜を想定した避難訓練を実施している。地域住民には事前に文書を配布し理解を得るようにしている。事業所前の道路が村の避難経路に指定されているが、小高い丘の上に立地するホーム周辺には民家も少ない等条件が厳しい。	ホームは小高い丘に立地し閑散地のため、事業所内設備や体制の充実を図るとともに、消防や地域住民を巻き込んだ訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でのポータブルトイレを使った排泄の際は必ずブラインド・居室のドアを閉め、プライバシーに配慮している。	認知症ケアマニュアルを参照しながら、利用者の誇りが損なわれないような声かけを行っている。排せつの失敗時には周囲に気づかれないよう職員間で連携し、浴室まで誘導し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中から、本人の希望を聞き出し、飲み物の選択や活動内容の決定を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間を本人の希望に時間に提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事やお出かけの際は、本人に着る物を選んでもらったり、時間をかけて化粧したりと準備を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、食器拭き等の際にねぎらいの言葉をかけ、〇〇さんのおかげでおいしくいただける旨の声掛けを行い、意欲を高めている。	日々利用者の希望を聞きながらメニューを決め、利用者は職員と一緒に買い物や野菜の下ごしらえ等を行っている。職員は利用者と共に食していないが検食を実施している。利用者ひとり一人のペースに合わせて、1時間半から2時間かけて自力で食事を摂取する環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表や、形態(とろみ・ゼリー)を工夫し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシでのケアや、ガーゼを使った口腔ケア等、個々の状態や、能力に合わせた対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しリズムの把握に努め失敗を予防し自立心の確保に努めている。個々の能力や、時間帯におけるリスクを踏まえた排泄介助を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、必ず食後に排尿がある等それぞれのタイミングで声をしながらトイレへ誘導し自立に向けて支援している。おむつ使用の利用者の落ち着きがなくなる等のサインをキャッチしたりしてその都度対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、水分摂取量の低下を予防、運動の励行により便秘を予防している。その上で便秘のある方に対しては主治医と相談し、便秘薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声かけは行うものの、最終決定は利用者自身であり、利用者の意思決定の下で対応している。拒否のある利用者も、浴室を温めたり、本人の納得のできる説明を行っている。	浴室、着脱室には暖房設備が整い、入浴後も身体が冷えることがないように工夫している。拒否のある利用者に対しては、職員が身内になりきったように接し、足浴から始め入浴を実施している。午前の入浴が基本だが希望により午後も対応し、同性介助を原則としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なく眠れるように就寝時居室にて付添を行ったりしている。ときには淋しさを訴え、不安になる利用者を職員の夜間待機するリビングのソファで休んでもらい安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルに沿って対応し、安心して飲めるような声掛けを行ってから服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の草木への水撒きや、食事の下ごしらえ（もやしのひげ取り・葉摘み等）を協力してもらっている。時には施設外散歩の際に。道のゴミ拾いを行い、地域の一員としての役割意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出を行っており、本人の希望に応じた外出先に出掛けている。	介護計画に週1回の外出計画を組み入れるなど、積極的に外出支援を実施している。車椅子使用者が多いため、ドライブを中心に外出し気分転換を図っている。飛行機が好きな利用者は、家族の協力を得ながら飛行場周辺のレストランまで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力時応じて普段から自己管理できる方への支援をはじめ、自己管理できない方に対しても、お出かけの際には職員管理の下お金の使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ニーズがあれば家族との調整の上対応する方針である。家族からの「声を聞かせてほしい」という電話に対して本人の電話利用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光の良いバリアフリー施設でリビングには共用のソファを設置し居心地の良い環境づくりに配慮している。季節に応じた壁飾りを採用し、利用者の活動の際の写真も併せて掲示し話題づくりの一助としている。	事業所内は木製の家具や調度品が配置され、食卓用テーブルと調理場が対面式になっており、調理する匂い等で自宅で生活しているような雰囲気が感じられる。利用者と職員は、写真や四季折々の壁飾りが飾られている共有スペースのソファ等で過ごす時間が多く、ゆったりとくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に共用のソファを設置したり、出窓近くの小テーブルにて気のあった利用者が一緒に洗濯物たたみをしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境の再現の重要性について入居時に家族へ説明し、使い慣れたものや生活習慣上必要なものを準備してもらうようにしている。（家具や仏壇等）	居室は防災上の配慮からブラインド対応である。居室での転倒の恐れがある利用者に対して、家具をうまく整え自宅と同じような環境をつくり、伝い歩きができるように工夫する等利用者の状態に考慮して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー施設の中、本人が理解しやすいような表示（シンボルマークではなく、「トイレ」「便所」「御手洗」の見やすい場所への表示等）を工夫している。		